

米機の日本空爆行記

ロ市

M

一生

譯

日本空襲行
陸軍大佐
ジョン・ヒルガード

(一)
一九四二年四月十八日
(土曜日)

この日を生涯私は忘れない
だらう。午前四時十五分吾々
は戦闘詰所へ呼び出された。

そこで出發まで準備に暇のな
いことを知つた。一同それぞ
れ機に荷物を全部積み込んで
朝食をすまし、吾々に防寒を

試みる敵の小艇に對しあがる
洋艦が左舷の砲門を開いたの
でその戦闘の進展を待つた。

擴聲器からの命令は今沈みつ
くので出發まで準備に暇のな
いことを知つた。一同それぞ
れ機に荷物を全部積み込んで
朝食をすまし、吾々に防寒を

難なことであつた。けれどもじまつた。耳にあてた通話器

飛見されるごとなく飛行を續け

正午に到着するが出来た。

（土曜日）

この日を生涯私は忘れない

だらう。午前四時十五分吾々

は戰闘詰所へ呼び出された。

飛んだ。澤山の漁船を見た。

名古屋の恰度南の地點に到

着するまで日本列島の南沿岸

に沿ふて西方寄りのコースを

飛ぶ。午後四時十五分吾々

は飛行を續け

た。正午に到着するが出来た。

（土曜日）

この日を生涯私は忘れない

だらう。午前四時十五分吾々

は飛行を續け

た。正午に到着するが出来た。

飛んで云ひ得なかつた

<p